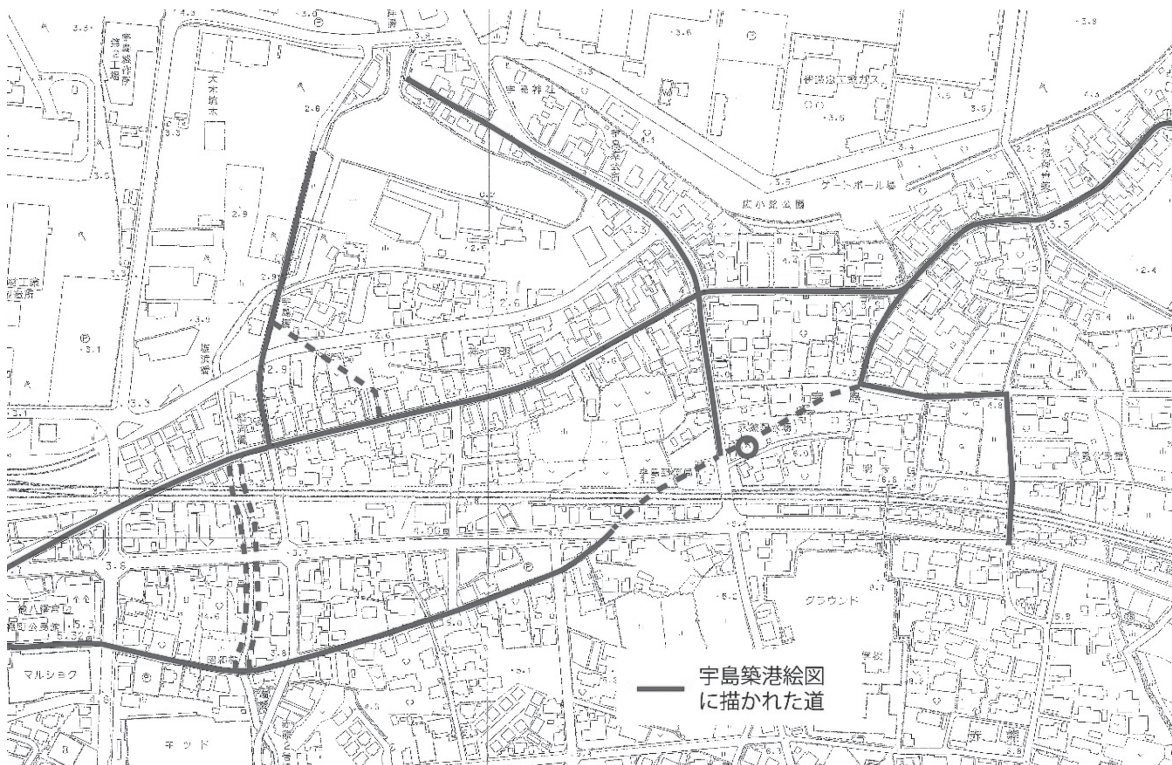




現在の船溜まり



船溜まりに面した町並み



現在の地形図に見られる旧道

(13) 産業遺産

旧宇島鉄道

同鉄道は、当時の鉄道省日豊本線宇島駅から分岐して、宇島駅（起点）～千束駅～塔田駅～黒土駅～広瀬橋駅を経て大分県の耶馬溪駅（終点）まで結ぶ鉄道路線（軽便鉄道）でした。

大正 3 年（1914）に開通し、22 年間の営業の後、昭和 11 年（1936）廃止されました。

市内の路線は、宇島駅から西へ延び、求菩提道に沿って南下、千束駅に到達し、勅使道（現国道 10 号）を横切って、その道にほぼ平行して東南に行き、岸井の黒土駅を経由して、佐井川の広瀬橋駅まで、この間約 4.6km（図上計測）となっています。

現在でも石材を積み上げた鉄道の橋脚跡が残っていますが、場所によってはほとんどその遺構を見出すことが難しく、わずかに一部線路の盛土が残っていたり、草の生えている様子などから線路跡と推察されるようです。



宇島鉄道の橋脚跡



線路が通されていた盛土

旧豊州鉄道

豊州鉄道は明治 22 年（1889）に行橋から柳ヶ浦（現材の宇佐市）間を本線とし、行橋から大任間が支線として計画され明治 30 年（1897）に行橋から宇佐間が開通しました。市内には松江駅と宇島駅が設けられました。田川からの石炭輸送が主でしたが、沿線には大きな石炭積み出し港がなく、明治 34 年（1901）に門司への路線を持つ九州鉄道と合併しました。その後の明治



旧豊州鉄道の橋脚

40 年（1907）には国鉄に買収され、国有鉄道となりました。城根川の河口に架かる JR 日豊本線の橋脚は、旧豊州鉄道開通の際に築造されたものです。

宇島港旧防波堤

明治末に石炭積み出し港として栄えていた頃に築かれた防波堤で、かつての海岸線に沿った鉄筋コンクリートの堤です。現在は、港は埋め立てられ、その多くが第 1 号広小路緑地となっています。地上から 1.5～2m 余り出ており、全体が外に向かってわずかに湾曲しています。この全長は約 630m の長さとなっています（図上計測）。

この堤の東には新たな漁港が整備され、漁船などが係留されています。



第 1 号広小路緑地沿いの旧防波堤



旧防波堤の東端